

## おりお堀川を愛する会

重藤 一

### 『私の思う折尾のまちづくり』

折尾の中心市街地を流れる堀川は1804年に寿命の唐戸を基点として洞海湾に注ぐまで全長12kmの人口運河である。

現在の堀川は中間市を流れる曲川の所で立体交差していた堀川を分断して水の流れを止めて、わずかに曲川から水をくみ上げて水量を確保しているのが現状です。

元来、堀川は人々の生活と産業の近代化に密接な関係にあったが、都市のインフラ整備が進むにつれて川と人々の関わりが希薄になるにつれ、汚く澱みゴミが堆積する臭い川となっており、生活の利便性を追求した社会の発展が環境を破壊しているのが実態です。

しかも、市街地の河川は道路等の為に埋め立てられ、駅を中心とした市街地に運河が流れているのは全国でも数えるほどしか残存していないのが現状です。現在折尾の街は再開発計画により生まれ変わろうとしている。堀川にとつても、再生される千載一遇のチャンスだと思いません。

例えば、河川を活用したガーデンテラスのある店作りや、堀川を親水性のある護岸整備を行い「河守神社」「手掘りのノミの後」「もやい石」から「くぐり橋」、折尾駅前を通過して洞海湾までを五平太船を運行することにより、観光資源としても活用できる。堀川にもっと水が流れていけば綺麗になる。それは水量だけではなく街に水を湛えた堀川があることにより、運河を活用した景観まちづくりを行うことが出来る。

産・学・官及び市民が一体になって、堀川の再生は地域の再生と位置づけ、堀川を中心とした折尾の景観を活用したまちづくりを考えたいと思います。

### 大浦婦人会会長

太田 康子

### 『女性も学生も皆で

### 「折尾のまちづくり」

私は「大浦」に32年前に越して来た。新興住宅地は子ども達で一杯。

子ども会ができ、老人会が結成されて地域での子育て、親子が盛んだった。PTAを通して仲間の輪も広がった。

徐々に時間が出来、地域で何か役に立とうとの意見で婦人会を結成。

目的はいろんな活動を通して、地域全体に助け合える仲間を作ること。

活動はすぐに出来る生ごみ減量やエコライフ、福祉協力員として地域の見守りや、激しい変化に対応できるように常に学習し、出来ることを実践して15年。

近頃は、コーラスの練習にも励み敬老会で披露したりと、地域との繋がりは深まっている。

新興住宅地も30年が過ぎ皆一斉に年を重ね今は子ども達が親となり「大浦」は「ふる里」となった。自治区会開催の納涼祭りではこの「ふる里」は同窓会場となる。

今折尾の町は「チェンジ」しようとしている。総合開発が着工され、10年後には素晴らしい駅と駅前広場ができ、交通網が整備され快適にそして便利になることでしょう。

そこで、折尾の街に住む人と折尾を利用する学生たちが交流

することで、この街を清潔で、マナーを守り、互いに挨拶の交わされる素敵な笑顔の街「折尾」になるよう、今から準備が必要。

それには女性のパワーも加わることが望まれる。例として、月1回地域と中高生・留学生を含む学生たちと共に花咲く街作りに汗を流す。

10代から年長者まで会話をしながら木や花を育て、併せて人間関係も育てる。

街に愛着が生まれ、他の事業へと広がり期待。

・折尾の街を緑を豊かに清潔で明るいまちにします。

・きまりを守り安全なまちにします。

・人を大切にしふれあいの輪をひろげます。

・元気で働き明るい家庭をつくります。

・学ぶ楽しさを深め文化のおおるまちにします。

## 折尾西子供会会長

横田 俊盛

### 『子供会と、そこから広がる輪』

私たち子供会は、「子供たちが主体であること」「子供たちが安全であること」「子供たちの健全育成」を目的として運営しています。

この中の「健全育成」として、特に「他の子供たちを思いやることができる」「他の子供たちを認め、尊重することができる」「感動することができる」「礼儀や節度を知る」ということを、目標に掲げています。

これは、二〇数年前、子供たちの無気力・無関心・無感動という三無主義が問題になり始めたことに端を発しています。

私たち大人は、往々にして「最近の子供たちは…」と言いがちです。確かに数十年前の子供た

ちと比べて、今の子供たちは、いろいろの意味で変化してきていると思います。

しかしこれは、本当に子供だけの問題なのでしょうか。

子供は、この世に誕生してから、日々成長を重ねていきます。すべての子供たちは、常に、誰かの保護の下で育っていきます。一方、親である私たちも、子供が誕生したその瞬間に、新たに親として誕生します。親としては全くの初心者ですし、未熟です。

しかし、核家族化の進行で、親を育ててくれるはずのおじいちゃん・おばあちゃんが、常に身近にいてくれるとは限りません。親になりきれない大人が、子供の能力を育んでやれず、結果として三無主義が問題化したのではないかと思われま

す。そこで私たちは、地域のつながりが、とても重要になると考えました。

子供会では、子供たちはもちろんですが、ご父兄の方も、多数活動に参加し、協力してくれています。

子供と一緒に、私たち大人同士も協力し合い、お互いを高めていく、そしてそこに、地域の方や年長の方も加わって、それぞれが、自分の価値を見いだしていく、そういった姿こそが、私たちの目標としている子供会です。

水面に、静かに同心円を広げていく一石になれたらいいなと願っています。



折尾神楽 夏越祭 塩被

こすげのりかす